

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度					
レポート／作品					
発表					
小テスト					
試験					
その他	実習施設指導者と担当教員の双方から評価する。各実習目標に応じて、生活環境の理解、利用者の理解、生活支援技術の実践、介護過程の展開、実習態度等の内容で評価する。	40		60	
合 計		40		60	

回数		授業計画
1	授業内容	1 年次 8・9 月【基礎実習Ⅰ】 計 10 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での実習（通所施設での実習も含む）。 利用者の生活や環境の理解、コミュニケーションを含めた生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	実習施設の概要を調べ、記録する。
2	授業内容	1 年次 8・9 月【基礎実習Ⅰ】 計 10 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での実習（通所施設での実習も含む）。 利用者の生活や環境の理解、コミュニケーションを含めた生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	利用者とのコミュニケーション場面を振り返り、プロセスレコードを記入する。
3	授業内容	1 年次後期【訪問入浴見学実習】 訪問入浴車による入浴介護の見学（学内にて実施）
	事前・事後学習	訪問入浴見学実習の感想と学びをまとめる。
4	授業内容	1 年次後期【居宅介護実習Ⅰ】 計 1 日間 訪問入浴事業所での実習。担当職員に同行する。
	事前・事後学習	訪問入浴サービス場面を振り返り、感想と学びをまとめる。
5	授業内容	1 年次 2 月【基礎実習Ⅱ】 計 5 日間 障害者支援施設・障害福祉サービス事業所での実習。 利用者の生活環境や状況、ADL の理解、コミュニケーションを含めた生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	実習施設の概要を調べ、記録する。プロセスレコードを記入する。
6	授業内容	1 年次 2・3 月【施設介護実習Ⅰ】 計 16 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・小規模多機能施設等の高齢者施設での実習。 利用者の情報収集を通して利用者理解、生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	実習施設の概要を調べ、記録する。担当利用者を選定する。
7	授業内容	1 年次 2・3 月【施設介護実習Ⅰ】 計 16 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・小規模多機能施設等の高齢者施設での実習。 利用者の情報収集を通して利用者理解、生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	利用者とのコミュニケーション場面を振り返り、プロセスレコードを記入する。
8	授業内容	1 年次 2・3 月【施設介護実習Ⅰ】 計 16 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・小規模多機能施設等の高齢者施設での実習。 利用者の情報収集を通して利用者理解、生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	担当利用者の情報収集を行い、利用者記録および情報収集用紙に記録する。
9	授業内容	2 年次前期【居宅介護実習Ⅱ】 計 2 日間 訪問介護事業所での実習。担当職員に同行する。
	事前・事後学習	訪問介護サービス場面を振り返り、感想と学びをまとめる。

10	授業内容	2年次8・9月【施設介護実習Ⅱ】計21日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	事前・事後学習	実習施設の概要を調べ、記録する。担当利用者を選定する。
11	授業内容	2年次8・9月【施設介護実習Ⅱ】計21日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	事前・事後学習	担当利用者の情報収集を行い、アセスメント用紙に記録する。
12	授業内容	2年次8・9月【施設介護実習Ⅱ】計21日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	事前・事後学習	介護計画を立案し、援助計画用紙に記録する。
13	授業内容	2年次8・9月【施設介護実習Ⅱ】計21日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	事前・事後学習	計画実施状況の記録。援助内容を評価し、必要に応じて再アセスメントする。
14	授業内容	2年次後期【居宅介護実習Ⅲ】計2日間 認知症対応型共同生活介護での実習。認知症高齢者に対する支援を行う。
	事前・事後学習	認知症高齢者への支援を振り返り、感想と学びをまとめる。
15	授業内容	1～2年【全実習共通】 地域における生活支援の実践、多職種協働の実践
	事前・事後学習	職員の話や業務の見学または参加を通して、利用者の生活と地域との関わり、地域での生活を支える施設の役割、多職種協働の必要性和方法を考える。